

ご挨拶

第18 回へき地・地域医療学会 大会長

自治医科大学 地域医療学センター 総合診療部門・

地域医療人材育成部門 助教 白石 裕子

みなさまこんにちは！

ご多忙の中ご参加いただきありがとうございます。

ノストラダムスの予言は外れて21世紀初め、導入された介護保険の担い手が、”おみこし”から”おんぶ”になるのでは、と心配していた2025年を迎えました。2000年生まれの医師、令和生まれの小学生も誕生し、本学会も第18回目となります。今回は”地域医療の未来をひらく”をテーマとし、中国・四国の卒業生で実行委員を務め、約10か月準備してまいりました。招聘講演では前川恭子先生（山口15期）から「井の中の蛙、大海を知り、また井にカエル」との素敵なタイトルでご講演いただきます。メインプログラムは世界、日本、そして地元滋賀県でご活躍の先生方のそれぞれの視点からのご講演が実現しました。アメリカ、オレゴン州で世界を見据え、地域で診療を行う勇氣、診療所ベースの研究について、山下大輔先生（オレゴン健康科学大学）、2040年に向けて日本の地域医療と総合診療のあるべき方向性を長嶺由衣子先生（東京科学大学など）、地域で住民と向き合い続ける花戸貴司先生（滋賀18期）にお話しいただきます。企画プログラムでは羅生門的地域医療 べき論(ジレンマ)からの解放～文化人類学の観点から～」（鳥取・徳島企画）、「未来の地域医療 ～ダウンサイジングに灯をともす～」（広島・山口企画）、「地域医療と災害医療の親和性～きたる南海トラフ地震に備えて」（高知・岡山企画）、「ワークライフバランス今昔 そして、未来」（島根・香川企画）、「地域で活躍する総合診療医の教育、キャリア形成を考える」（愛媛企画）といった魅力的なプログラムをご用意しました。義務明け卒業生の”私の地域医療”に関する高久賞候補演題、一般演題には医学生、多職種の方を含め応募いただきました。さらに、今回「医学生が斬る！地域医療」という新企画、また展示ブースでは、企業展示、自治医科大学総合診療部門・感染症学部門からのお知らせと、自治医科大学小児科がけん引する COI-NEXT 自治医科大学”共創の場形成支援プログラム、医療&福祉DXを活用した全世代ケアラーのヘルスエクイティを目指す地域共創拠点”のご紹介等もあります。見逃した企画、もう一度見たいものを後日配信（一部現地のみ）することも決定しましたのでご活用ください。

共に旧学生寮で過ごした先輩、後輩をはじめ、それぞれの場所でそれぞれに力を尽くしておられる皆様方とお会いすること、これからの地域医療について語り合える場となることは大変うれしく、どこか懐かしくもあるとわくわくしています。ぜひ楽しんでいただき、また明日からの診療や地域医療のヒント、エネルギーになれば幸いです。この会と一緒に作り上げてきた実行委員の皆様、事務局の皆様、関係各位の皆様、そしてご参加の、充実した学会に仕上げていただく皆様に、改めて厚くお礼申し上げます。